

人と自然を大切にするみちづくり



死傷事故が引き起こされる割合は？

死傷事故率

(死傷事故率 = 死傷事故件数 / 自動車走行台キロ)
 交通量及び延長(自動車走行台キロ)に対する死傷事故件数。

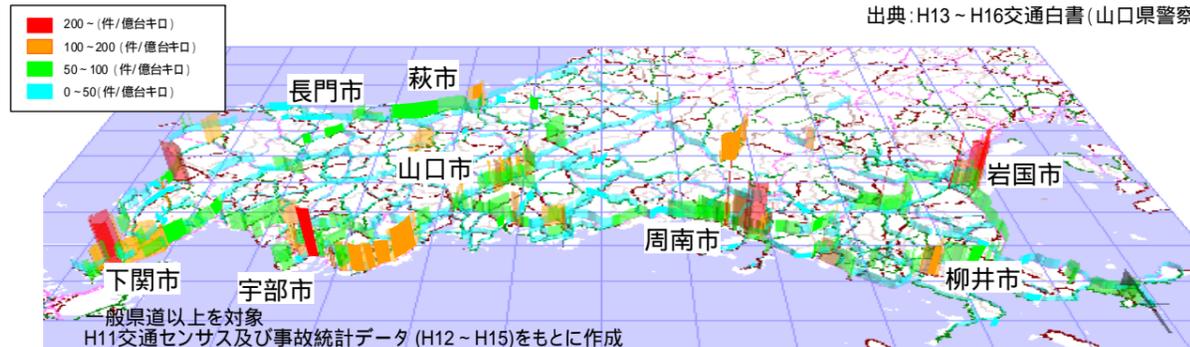
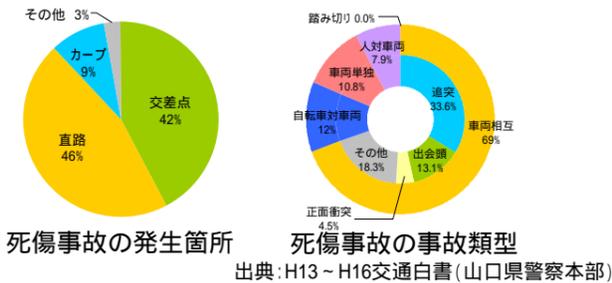


地域の現状と課題

死傷事故の特性

死傷事故は、約4割が交差点で発生しています。また、死傷事故の約7割は車両相互の追突や出会い頭の衝突によるものです。

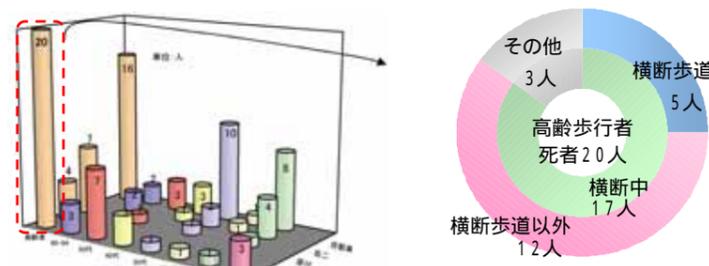
死傷事故率は、交通の集中する山陽側において高い傾向が見られます。



交通事故死亡者の状況

交通事故死亡者の約4割が65歳以上の高齢者であり、歩行中の事故が多くなっています。

また、歩行中の高齢死亡者20人のうち、17人は道路横断中に事故に遭遇しています。

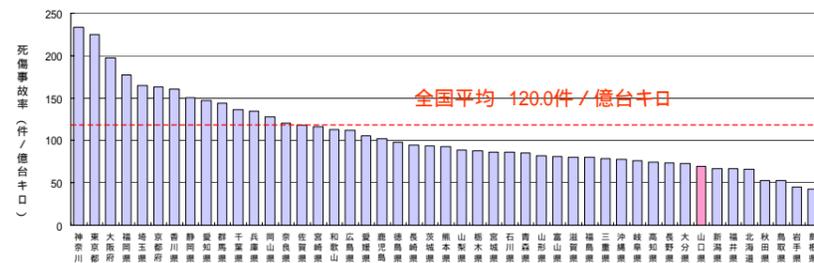


出典: 山口県警察HPより
 交通事故死亡者の年齢及び事故形態(平成16年)

山口県の死傷事故率

山口県の死傷事故率69.5件/億台キロは、全国で8番目に低く、全国平均120.0件/億台キロを大きく下回っています。

平成17年度は、死傷事故率の一層の削減に努めます。



出典: H17業績計画書(国土交通省道路局)
 各都道府県の死傷事故率

課題への対応

事故危険箇所及びあんしん歩行エリアにおける交通安全対策

山口県公安委員会と道路管理者の連携のもと、特に事故率が高く対策が必要と認められる単路部や交差点を「事故危険箇所」に指定するとともに、歩行者や自転車の安全な通行を確保すべき地区を「あんしん歩行エリア」に指定し、安全対策に向けた整備を実施しています。

代表整備箇所「山口市亀山地区」(あんしん歩行エリア)

歩行者や自転車の安全な通行を確保するため、歩道の拡幅、段差の解消等を行っています。



整備中

代表整備箇所「国道2号 周南市花鳥町交差点」(事故危険箇所)

防府方面へは下り勾配で速度が出やすいため、減速を促す路面表示等により対策を行います。



整備前



出典: 国土交通省山口河川国道事務所資料
 事故危険箇所及びあんしん歩行エリアの指定箇所

排水性舗装の敷設状況を示す参考指標

直轄国道の排水性舗装敷設率 17%

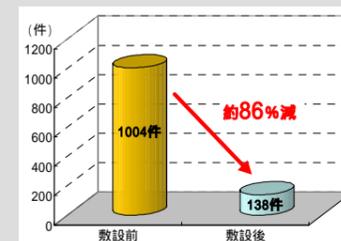
排水性舗装は、走行車両による水はねやハイドロプレーニング現象の緩和により、降雨時の安全性を向上するとともに、自動車騒音の吸収により騒音を低減します。

排水性舗装の具体的な効果として、高速道路における雨天時の事故件数が、敷設前後で約86%減少したというデータが得られています。

山口県内の直轄国道における排水性舗装の敷設率は約17%です。今後は、排水性舗装の敷設率を高めるとともに、機能低下した敷設区間の補修も効率的に行っていきます。



排水性舗装敷設前後の道路の状況



(事故データの条件)
 高速道路のうち、平成元年度から7年度に排水性舗装を敷設した箇所敷設前の1年間の総事故件数が6件/km以上、かつ雨天時の事故がそのうち50%以上の箇所上記要件に該当する110箇所を対象としている

出典: 第22回日本道路会議論文集「高速道路における排水性舗装と安全性」(日本道路公団)

排水性舗装敷設前後1年間の事故件数(雨天時)